

博慈会 老研一口伝言

ムーンショット計画と未病

知る人は知っておられると思いますが、「例えいい結果が出なくてもいい、まず大胆にチャレンジしてみよう」という粋なプロジェクトが2019年、政府内閣府指導でスタートしています。題して「ムーンショット計画」。さらに「破壊的イノベーション」というチャレンジナブルな副題も付いています。

● アポロ計画に学ぶ

ジョンF ケネディー大統領が「月に行こう」と1961年に言いだし、なんと1969年には本当に月に到着しました。記憶にあると思います。あのアポロ計画を真似て作られたと聞きます。

これは2050年の日本の状況を想定勘案して、先回りしてその時の課題に速やかに対応すべくプロジェクト計画が動き出しました。予算は約2000億円。

この計画を挙げると例えば ①人口減少に対応して、分身(アバター)を作り働かせる。②温暖化や台風の勢力を弱める気候変換技術の開発、③廃棄物からの食料産生を考える完全資源循環型システムの研究、そして④として病気になる前に治す健康維持システムの開発があります。もちろん病気の予測も含まれています。そう、「未病の概念」がノミネートされ、居ながらにして体調補正がなされる未病ケアシステム社会の創出が見込まれているのです。

● 国民皆保険制度に頼る事無く

例えば、個々人の遺伝情報、生活習慣、環境データをAIが総合的に分析し、発症前にリスクを可視化する。スマートウォッチがわずかな心拍

変動から自律神経の乱れを検知し、食事や運動の改善を提案する。あるいは、腸内細菌の状態から慢性疾患のリスクを予測し、オーダーメイドの食事療法が提供される。デポジットされた保険金額内で最適治療のメニューが指示されるなど。――これらはすべて、未病の実践と、ムーンショット技術の融合によって可能になる未来です。

● タイムカプセル「未病と抗老化」

この計画のリーダーは一昨年「未病と抗老化」に寄稿を頂いた愛知医科大学学長の祖父江元先生です。彼を中心に多くの研究施設が活動し始めました。

老人病研究所も25年先の2050年を見すえ、これに対応すべく①未病研究の応援、②未病テック技術の開発推進、③未病ケア食品などの普及に啓発をしていく所存です。「未病と抗老化」で集まりました多くの論文は貴重なエビデンスとしてタイムカプセル(シード)として保存したいと思います。そして2050年にむけてムーンショットさせたいと考えております。



(内閣府HPより引用)